

別添資料 1

1 重要無形民俗文化財の指定

名称 大鹿歌舞伎

文化財の所在地 大鹿村

保護団体 大鹿歌舞伎保存会

公開期日 大磧神社舞台 5月3日 市場神社舞台 10月第3日曜日

文化財の概要

大鹿歌舞伎は、記録によると明和4年(1767年)の記録が確認できることから、少なくとも18世紀半ばまでにはこの地で歌舞伎が行われるようになっていた。現在は村内の大磧神社舞台と市場神社舞台の2か所で春・秋1回ずつ公演される。伝承演目は義太夫狂言を主として30種ほどあるが、舞台装置や演技・演出に大鹿歌舞伎独自の形がみられ、村民の手で長く伝承されてきたことを示している。演目の一つ「六千両後日文章・重忠館の段」は中央の歌舞伎や他地域の地芝居には見られない独特なものといわれ、地芝居特有の狂言として全国的にも貴重な伝承といえる。

〔問い合わせ先〕 大鹿村教育委員会 0265-39-2100



熊谷陣屋



六千両後日文章

別添資料 2

2 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択

名称 ^{あづみだいら おふねまつり}
安曇平のお船祭り
文化財の所在地 安曇野市、松本市、池田町
保護団体 特定せず
公開期日 4月から10月まで

文化財の概要

安曇平でのお船祭りは、各地区においての祭礼として行われている。お船は軍記物などを題材とする作り物を配したいわゆる^{ひきやま}曳山で、宵祭りで完成したお船を披露し、翌日の本祭りで巡行させるといった例が多い。巡行は各町内から所定の経路を通過して神社へと向かい、到着したところで「オフリヨウをわたす」と称し、境内を巡回する。オフリヨウは、御布令、御布領、御風流などと当て字される。地区によっては、この周巡の際に2基のお船の前後をぶつけ合う。これは男女和合の意で、子孫繁栄を願うものなどという。こうしてオフリヨウが終わると、お船は各町内へと戻って^{なおり}直会になり、祭りは終了する。

〔問い合わせ先〕 安曇野市教育委員会 文化課 0263-71-2464



中萱のお船祭り



穂高神社のお船祭り